日本鳥学会 2020年度評議員会報告

日　時：2020 年 8 月 20（木）15:00–17:40
場　所：オンライン
出席評議員：尾崎清明（会長），植田睦之，亀田佳代子，川上和人（基金運営委員長），齋藤武馬（鳥類分類委員長），嶋田哲郎，高木昌興，永田尚志，西海　功（目録編集委員長），濱尾章二（図書管理委員），早矢仕有子，森　さやか（広報委員長），山口典之，綿貫　豊（副会長）
各種委員会代表等：新妻靖章（英文誌編集委員長），藤田　剛（和文誌編集委員長），北村　亘（鳥類保護委員長），金井裕（日本産鳥類記録委員長），牛山克巳（企画委員長）
事務局：浅井芝樹（事務局長），片山直樹（会計幹事），安藤温子（前会計幹事）
監　事：秋山幸也

報告・審議事項

1) 各種委員会報告（報告内容については委員会報告を参照）
2) 事務局関係報告
   a) 会員動向
   b) 2019 年度決算報告（和文誌 69 巻 2 号に掲載）
   c) 2020 年度会計予算の執行状況の報告
3) 審議事項
   a) 次期各種委員会体制に関する審議
   鳥類保護委員会で出口智広が退任し，澤祐介が就任．企画委員会で嶋田哲郎，水田拓が退任し，澤　祐介，出口翔大，松井晋，森口紗千子が就任．広報委員会で遠藤幸子が就任．
   b) 2021 年度予算案
   2021 年度予算案が諮られ，承認された．
   c) 2020 年度予算について再承認
   2020 年度予算のうち通常会計，単年度収支の修正が諮られ，承認された．
   d) 2021 年度大会開催地
   評議員会冒頭で森大会会長より挨拶がなされた．
   e) 2021 年度大会開催候補地
   2021年度大会開催候補地（東邦大学習志野キャンパス）についてオンラインでの開催も併せて審議，承認された．
   f) 2022 年度大会開催候補地
   2022 年度大会開催候補地（東京農業大学北海道オホーツクキャンパス）について審議，オンサイトでの開催という条件で承認．
   g) 規約改定
   電子投票を導入するための規約改定が諮られ，承認された．
   h) 投稿・査読システム導入
   和文誌への投稿・査読システムの導入について諮られ，承認された．
   i) 黒田賞募集要項の変更
   黒田賞募集要項について諮られ，保留された．

和文誌編集委員会報告

1)　日本鳥学会誌発行状況

69 巻 1 号を 2020 年 4 月，69 巻 2 号を 10 月に発行した．Editor’s Choice「注目論文」はそれぞれ，田悟和巳さん他のレーダーを用いた夜間の渡り鳥渡り経路追跡の論文と，溝田浩美さん他のアオバズクの給餌内容の変化の論文に決まった．

1 号（4 月）　特集 3，原著 3，短報 1，観察記録 4
2 号（10 月）原著 3，短報 1，観察記録 2

2)　日本鳥学会誌編集状況

2020 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに受け付けた投稿状況および前年からの繰り越し分を含めた論文の編集状況は以下のとおりである．

	総説	原著	短報	技術報告	観察記録
繰越し	2	10	2	0	3
投稿	0	5	7	1	9
受付	0	5	7	1	9
受理	1	6	2	0	5
編集中	1	9	7	1	6
不受理	0	0	0	0	1

3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去 1 年間（2019 年 1 月–2019 年 12 月）の和文誌掲載論文（2006 年第 55 巻–2019 年第 68 巻）に対する全文 PDF アクセス数（クローラー除く）は昨年の約 1.3 倍にあたる 66,666 件だった．国別内訳は昨年同様，日本が多数を占め（78.0%），アメリカがこれにつぎ（15.8%），他の国はわずかとなった．ダウンロー

ドされた 357 報中，ダウンロード数上位 20 報の種別を見ると，総説が 11 報（55%，黒田賞受賞論文・モノグラフを含む），原著論文が 6（30%），短報が 2 報（10%），観察記録が 1 報（5%）だった．

（和文誌編集委員長）

英文誌編集委員会報告

1）発行状況

第 19 巻 1 号（原著 5 編，短報 6 編，テクニカルノート 1 編）を 2020 年 1 月に，2 号（原著 7 編，短報 4 編）を 7 月に発行した．Editor's Choice はそれぞれ A. DORZHIEVA 氏らの渡り時期の変化に関する論文と，C-C. CHEN 氏らによる夜間の渡りに関する論文とした．

2）編集状況

2020 年 1 月–12 月（2021 年 1 月 14 日現在）

総投稿数　51（前年比 1.65 倍）

受理数　10　採択率 34.5%［受理数／（総投稿数－審査中数－取り下げ数）］

審査中　22

取り下げ　0

却下数　19（うち編集委員会却下数　14）

前年に比べ投稿数は増えた．コロナ禍による外出自粛の影響とともに，雑誌の認知度も上がっている結果であると考えられる．ただし，査読まで回らず編集委員会内の審査で却下された論文が全却下論文の 7 割を占めており，投稿数の増加だけではなく投稿論文の質の底上げが重要な課題である．

3）　その他

2019 年の電子版アクセス状況は，資料トップへは昨年比 1.4　倍増の 5,132　件，全文 PDF へは 1.7 倍増の 17,890　件であった．2019　年のインパクトファクターは 0.705（Ornithology　カテゴリ 28　誌中 19位）で，昨年に比べ微増，順位も 21　位から上昇したが，大きな変化ではなく引き続き注視が必要である．

（英文誌編集委員長）

鳥類保護委員会報告

1）（仮称）秋田県由利本荘市沖洋上風力発電事業に対する要望書の提出

秋田県由利本荘市沖で大規模な洋上風力発電が計画されており，会員からの相談にもとづき対応を協議した．事業予定地はハクチョウ類及びガンカモ類のフライウェイのメインルートであり，渡りの経路を埋め尽くす形で風発が設置されることとなるばかりでなく，マリーン IBA に選定されている海域であり，海鳥にも影響が生じることが懸念される．洋上風力発電ではバードストライクがあっても，落鳥個体を収集できず，実態の把握が困難である．これらの点を考慮して，準備書に対するパブリックコメントについて，鳥類保護委員会から意見を出すとともに，2020 年 2 月 3 日付で秋田県知事へ，同年 3 月 16 日付で環境大臣へ，「（仮称）秋田県由利本荘市沖洋上風力発電事業に係る鳥類保護に関する要望書」を提出した．また，日本鳥学会事務局を通した事業者からの要請に基づき，鳥類保護委員長が直接面会をして当該事業に関する意見交換を行なった．

この海域は再エネ海域利用法で洋上風力発電の開発を先行的に進める「有望な区域」に指定され，これ以外にも複数の洋上風力発電の建設が予定されている．今後の状況も注視しながら必要に応じて意見書などの提出を検討していく．

2）北海道（仮称）苫東厚真風力発電事業に対する意見書の提出

2020 年 5 月，北海道の苫小牧市から厚真町にかけての地域で計画されている（仮称）苫東厚真風力発電事業について，環境アセスメントの手続きがとられることとなり，配慮書が公開された．会員からの相談にもとづき，この事業に対する意見書の提出に関して協議した．この地域における鳥類の生息状況および鳥類の生息地の保全状況について精査した結果，現時点で計画地周辺での生息状況がある程度把握されている希少鳥類種のうち，とくに大きな影響が危惧されるものとして，タンチョウ，チュウヒ，オジロワシ，オオワシ，マガン，ヒシクイ，シジュウカラガン，オオジシギなどが考えられた．この点を考慮して，委員会で意見を取りまとめた上で，2020 年 11 月 1 日付で事業者に対して意見書を送付した．

3）　過去の決議や要望書の提出後の経緯

3）–1　上関（2008 年度大会決議）

2019 年 7 月 26 日に山口県は中国電力に対して，上関原発建設予定地の公有水面埋め立て免許を2023 年 1 月 6 日まで 3 年 6 か月延長する申請を許可したが，その後，反対住民の抗議行動でボーリング調査の準備作業が進まず，新型コロナウイルスの影響もあり，2020 年 4 月 16 日に中国電力は，海上ボーリング調査の再開時期を同年 10 月以降にする見通しを明らかにした．現在も追加の生物調査などは行われていない模様であり，引き続

き注目していく必要がある．また，当該地域の周辺では要望書を提出する段階では問題になっていなかったもののオオミズナギドリの繁殖も確認されており，今後はこちらにも注目をしていく．

3)–2　御蔵島のノネコ対策

現状，ノネコを捕まえて東京に送るなどの活動が行われているが，新型コロナウイルスの影響もあり活動が停滞していると考えられる．要望書の提出時にすでにオオミズナギドリの急激な減少が予測されていたため，個体数の変動などに着目していく必要がある．

3)–3　道北の風力発電

道北 7 事業のうち 2 事業は休止であるが，5 事業は継続中であり，環境影響評価手続きは完了した．2019年から第一期の工事（全 3期）を開始し2023年に稼働する予定である．工事前後の影響を調べるための事前調査も開始しており，引き続き関係者と情報交換しながら事態を注視していく．

3)–4　北上高地の風力発電

2017年に要望書を提出した後，大きな進展はないが，引き続き関係者と情報交換しながら事態を注視していく．

4) その他の鳥類保護に関する案件

環境省のレッドリスト改定にともないレッドデータブックが今後改訂される予定である．今後も情報を収集しながら，必要に応じて意見を提出していく．

（鳥類保護委員長）

日本産鳥類記録委員会報告

1) 目録第 7 版の記述事項に関する質問への対応

目録第 7 版の記述のうち，各地の生息記録に関する一般，もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った．

2) 目録の記載変更根拠資料の整理

目録 6 版から 7 版への記載変更の根拠文献や情報の確認を行い，資料として整理する作業を実行中である．

3) 日本産鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録，各地鳥類相，標本目録等の記述が掲載されている，日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った．これらは今まで同様，ある程度まとまりがついたところで，随時和文誌上に公表していく予定である．

4)　日本産鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録（インターネット上に公表された記録，個人的伝聞による記録など）についての情報の収集と整理を行った．

5)　日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力

当委員会の委員を通して要請があった場合に限って，目録，報告書，論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に，その探索と提供を行った．

6)　目録第 8 版編集について

目録第 8 版の編集について，記録委員会委員は目録編集委員として各地の記録収集と整理にあたることとなった．

7)　目録 8 版発行後の新記録種の確認体制について

新聞・雑誌記事や WEB 配信といった様々な媒体で新知見が公表される新記録種報告について，日本産鳥類記録委員会として文献化し記録確認を進めることの是非や体制について検討を行った．

（日本産鳥類記録委員長）

鳥類分類委員会報告

1)　目録編集委員会との協力について

2018年度の新潟大会の評議委員会・総会で，2022年発行予定の日本鳥類目録改訂第 8 版出版に向けて臨時委員会，目録編集委員会の設置が承認された．これにともない分類委員会では，メンバーの全員が目録編集委員会の委員を兼務することとなった．この目録編集作業を行うために，今年度は原則週一回，2 時間程度の作業を計 32 回，オンライン会議を通じて行った．具体的な作業としては，主に次版第 8　版に掲載される種のリスト作成とその学名の検討である．また必要に応じて，掲載種の分類学的見解や分布域の確認，和名の検討なども行った．

完成された目録第 8 版で掲載する種のリストについては，パブリックコメントの形で 2021 年度の早い時期に会員に学会 HP を介して公表し，広く意見を求める予定である．

2) 目録第 6・7・8 版の分類の変更点についての解説文の公表について

日本鳥類目録改訂第 6 版から第 7 版への分類体系の変遷の解説については，その一部を日本鳥学会誌に発表したが，まだ全体を網羅できていない．そのため，引き続きこの作業にも取り組んでいる．現在，この内容に加え，目録改訂第 8 版でなされるべき分類の変更点も含めた解説文の投稿準備を進め，まずはカモ目の種についての解説を和文誌に投稿準備中である．

（鳥類分類委員長）

目録編集委員会報告

日本鳥類目録改訂第 8 版の 2022 年 9 月出版に向けてパブリックコメントの準備を行った．7 版掲載種・亜種についての属以下の分類（和名，学名）の検討，および新規掲載種と検討種の検討と整理を優先しておこなった．パブリックコメントは諸事情により準備が遅れ，2 回に分けておこなうこととし，9 月 23 日にホームページで次の予定をお知らせした．

〇第一回パブリックコメント

2020 年 11 月末頃に，掲載種・亜種のリストを公表し，属以下の分類（和名，学名），および新規掲載種，検討種について 2021 年 2 月末まで意見を求める．

〇第二回パブリックコメント

2021 年 9 月頃に，掲載種・亜種を確定して示すとともに，地域記録を公表し，同年 12 月まで意見を求める．

第一回パブリックコメントの公表が遅れているが近々ホームページ上で上記リストを公表しパブリックコメントを募集する予定である．

（目録編集委員長）

企画委員会報告

1）鳥の学校

日本鳥学会 2020 年大会にあわせて第 10 回テーマ別講習会「鳥類研究のための空飛ぶドローン講座」を開催予定であったが，大会の中止に伴い取止めとなった．

2）男女共同参画関連

第 18 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2020 年 10 月 17 日にオンライン開催され，山本委員，堀江委員，中原委員が参加した．男女共同参画学協会連絡会運営委員会に山本委員がオブザーバー参加した．

3）日本鳥学会ポスター賞の実施

大会の中止に伴い取止めとなった．

4）その他

2020 年大会では企画委員会がシンポジウムと校舎企画を担当しており，準備を進めていたが，いずれも中止となった．

（企画委員長）

広報委員会報告

1）ウェブサイトの日々の更新・修正

事務局，各種委員会などから，月に数回の変更の依頼（最も多いのはお知らせ）が来ているが，ほぼ数日以内に処理できている．今後もこの速度を継続する．

今年度のウェブサイトの大きな変更箇所は下記である：1）トップページへの学会事務の営業状況の掲載，2）2020 年度大会の中止に伴う書面総会のページの開設，3）会員マイページ導入に伴うサイドメニューへの会員メニューの追加，4）リンクページへのリンクポリシーの明記，5）各種委員会ページのレイアウト変更（2020 年 12 月 22 日現在作業中）．

2）ウェブサイトのトップページへの SNS リンク追加

広報委員会運営の Facebook と Twitter のフォロワー数が今年に入ってから特に増加している（2020 年 12 月 22 日現在 Facebook 1,770 名，Twitter 1,131 名）．フォロワーからの要望も踏まえ，学会事務局の許可を得て学会ウェブサイトのサイドバーに SNS へのリンクボタンを設置した．フォロワーの年齢層は青少年から高齢者まで幅広く，職業も多様であるが，Facebook のページインサイトによれば特に 40 代後半以上の男性が多い．

3）2020 年度大会のウェブサイトを鳥学会サーバーで開設

2020 年度大会は中止となったが，ウェブサイトは学会と同じサーバーに開設した．また，今年度も大会実行委員からの依頼により，前年度大会ウェブサイトをテンプレートとして提供した．

4）2020 年度大会の各種連絡先メールアドレスを鳥学会のサーバーに開設

昨年度に引き続き大会事務局の各種連絡先メールアドレス 6 件を学会サーバーから提供した．学会事務局と大会事務局のメールアドレスの識別のため，大会用にはドメイン名を <osj2020.ornithology.jp> と指定して提供した．また，大会中止に伴う書面総会の実施のため，総会専用のアドレスも同ドメインで開設して学会事務局に提供した．

5）鳥学通信の発行

2019 年 9 月 1 日から 2020 年 7 月 15 日までに 10件の記事が掲載された．昨年に引き続き概ね月 2 報の目標を達成できていないので，掲載記事数の向上に務めたい．毎日 100–150名程度のユーザーの訪問がある．掲載依頼については，原稿受領後ほぼ数日以内に処理できているため，今後もこの速度を継続する．

掲載された記事の内容は大会報告が 6 報，企画

委員会連絡が2報，和文誌掲載論文広報が1報，会員からの行事連絡が 1 報だった．大会報告の内訳は 3 報が自由集会報告，3 報がポスター賞報告であり，例年寄せられる鳥の学校や大会エクスカーションの報告がなかった．

6）　新任委員の着任

2021 年から，遠藤幸子さん（日本科学未来館）が新任委員として加わることとなった．

（広報委員長）

基金運営委員会報告

1）2020 年度学会賞

学会賞受賞候補者として黒田賞・山本誉士氏，中村司奨励賞・西田有佑氏を選定し，評議員会で承認された．内田奨学賞は該当者がなかった．詳細は前号（日本鳥学会誌 69 巻 2 号）で報告済み．

2）2021 年度学会賞等

黒田賞，内田奨学賞，中村司奨励賞の募集を開始した．津戸基金によるシンポジウム開催助成の募集を開始した．IOC2022 参加助成の募集を開始する．

3）基金一覧，基金運用計画

別表の通り作成した．

（基金運営委員長）